

「東京2020オリンピック・パラリンピック教育フェスティバル」を開催しました

平成28年9月19日(月・祝)に国営昭和記念公園の「ゆめひろば」において「東京2020オリンピック・パラリンピック教育フェスティバル」が開催されました。

このフェスティバルは、2016年リオデジャネイロ大会開幕の機会を捉え、児童・生徒が体験や活動を通じてオリンピック・パラリンピックについて学ぶとともに、2020年に東京で開催するオリンピック・パラリンピック大会に向けて気運醸成を図ることを目的として実施されました。

当日は、はじめに、大型スクリーンを通してリオデジャネイロの子どもたちからのリレーメッセージ映像「Message from Rio」や東京都知事から



児童・生徒に向けたメッセージ映像を視聴しました。

次に、リオデジャネイロ五輪競泳女子金メダリストの金藤理絵さん、北京五輪競泳男子銅メダリストの宮下純一さん等から子ども頃の様子やオリンピックに出場するまでの経緯、オリンピックで体験したこと等の話を伺いました。

また、午前の部では、市内小学校の代表児童2名、午後の部では、市内中学校代表生徒2名が、「オリンピック・パラリンピック教育への期待と決意表明」を堂々と行いました。

フェスティバルの最後には、五輪メダリスト等と一緒に参加者全員が記念撮影を行いました。2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック大会に向けて、児童・生徒が心に夢や希望を抱く貴重な機会となりました。

同指導課・内線2499



新学校設立と新校舎建設に向けて検討を進めています

立川市と立川市教育委員会は、「けやき台小学校と若葉小学校の統合方針」に基づき、両校を統合し新学校設立と新校舎建設に向けて、平成28年度より具体的な検討を進めています。

新学校設立と新校舎建設のスケジュール

平成30年3月にけやき台小学校と若葉小学校を閉校した上で、同年4月に両校を統合し新たな学校を設立します。新学校の校舎については、平成30年4月から平成33年3月までは若葉小学校の既存校舎と若葉小学校の校庭の一部を使って建設する仮設校舎を暫定的に使用します。この間、けやき台小学校の校舎を解体し新校舎を建設して、平成33年4月に新校舎に移転します。

新校舎建設マスタープラン検討委員会が発足

けやき台小学校の敷地に建設する新校舎の理念や基本方針、配置案等を検討する「新校舎建設マスタープラン検討委員会」が8月に発足しました(写真左)。



保護者、公募市民、地域住民等から構成されています。今後平成28年度末の新校舎建設マスタープラン策定に向け月1回のペースで平成29年3月まで開催します。また、検討の参考とするため、アンケートやワークショップも実施し、多様な意見をお聴きしながら進めていきます。会議の概要についてはホームページ等で公開しています。

新校舎建設マスタープラン検討委員会の他にも、新学校の教育課程等を調整する「教育課程編成検討委員会」、校名・校歌の選定方法を協議する「新学校設立検討委員会」、通学路における児童の安全確保を検討する「通学路安全対策検討委員会」がそれぞれ発足し、検討しています。

『未来をつくる学校づくり』に向けて、今後とも皆様のご協力をお願いします。

同教育総務課・内線2474



けやき台小学校



若葉小学校

立川市の歴史文化財

31

柴崎村絵図



市指定有形文化財「柴崎村絵図」上が南、下が北です。

現在の立川市域は、江戸時代には、およそ北半分が砂川村、南半分が柴崎村でした。柴崎村絵図は享和4年(1804)に描かれたものです。大きさは約65cm×約95cmで、彩色されています。

一般的に村絵図は、領主が自らの領地の状況を把握するためにつくられたものです。代官や領主が交替する時、村の状況を記した帳簿である「村名細帳」と一緒に提出する

るために作製されました。村に残されている絵図の多くは、領主に提出された絵図の控え(写し)です。それらは村で大切に保管されていました。

柴崎村絵図には神社・仏閣や集落が描かれるとともに、畑や山林などが、色分けされています。道やその名称も記されています。当時、多摩川は現在と異なり、大きく2つに分かれて流れていたことがわかります。

柴崎村絵図は江戸時代の立川の景観を視覚的に伝える貴重な資料として、平成25年3月に市指定有形文化財になりました。

現在、歴史民俗資料館では、企画展「しばさき・すながわの絵図く地図でみる立川の歴史」を開催しています(12月11日まで 月曜休館)。今ご紹介した柴崎村絵図の他に、同時に指定された「砂川村絵図」・「砂川村野取反別帳 附砂川村絵図」等も展示しております。貴重な機会ですので是非足をお運びください。